

令和9年度 個人研究助成「1年次交付申請書」

1 研究者

【学校名： ○○○ 立 ○○○ 学校】

【職名： ○○ 】 【氏名： ○○ ○○ (ふりがな ○○○ ○○○)】

【教職経験年数： ○○ 年】 【年齢： ○○ 歳】

2 研究領域

【研究領域番号： 111 】 【研究領域： 道徳(小) 】 【研究対象学年： 6年 】

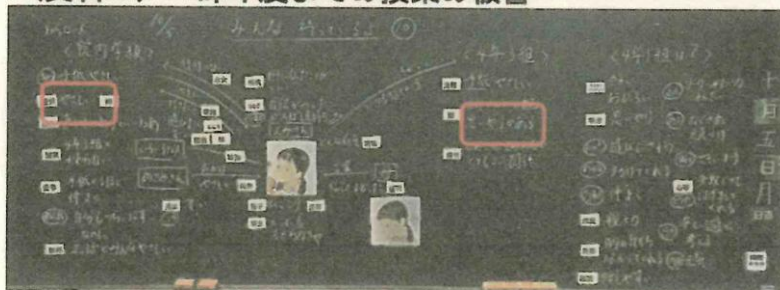
3 研究主題

自分たちでつくる道徳の授業 ―6年の実践を通して―

4 研究主題設定の理由

一昨年度まで、教材に対する児童の純粋な感想の交流からテーマを一つに絞り、みんなで本時の問題を決め、それについて考える授業展開をしてきた。こうすることで、自分事として問題に向き合おうとでき、その姿勢ができれば、考え、議論できる道徳の授業にできるのではないかと考え、この授業を展開してきた。最終的には資料1の板書のようなのだが、「やさしいなあ」「思いやりがある」などといった形骸化した意見や児童の生活に基づいていない意見が多く出た。教師主導から児童主導の授業にしたつもりではいたが、授業展開そのものや手だてについてたくさんの課題が残った。昨年度はその課題を受け、授業展開を見直したり、さまざまな手だてを考え実践したりしてきたが、断片的な実践にとどまった。

(資料1) 一昨年度までの授業の板書



本年度は昨年度の課題を受け、年間を通じた実践を行う。一学期からの研究の積み重ねを通して、児童が問題を自分事として捉えて道徳の授業において主体的な姿を見せたり、授業において考え、議論できたりする姿を願い、本研究を進める。

5 研究内容

(1) 研究の仮説

仮説1 児童が自らの生活を見つめて自分たちで教材を選定したり、それを省みる機会を意図的に設けたりすれば、自分事として道徳的問題を捉えたり、それを自分の生活に生かそうとしたりできるであろう。

仮説2 自分の考えをもち、仲間とじっくりと対話することができるチーム学習を基盤

とした授業展開を設定すれば、考え、議論する姿が生まれ、自分の考えを深めることができるであろう。

(2) 研究の手だて

<仮説1について>

手だて1 児童が理解しやすい言葉に変えた6-1特製内容項目を作成したり、カレンダーに書かれた月行事を示したりすることで、考えたい教材を自ら選ぶことができるようにする。

手だて2 授業において丁寧な振り返りへの応対をしたり、行事ごとの振り返りや視点を与えた日記を書き、それらを道徳掲示で進んで紹介したりすることで、学んだことを省み、今後に生かそうという思いをもてるようにする。

<仮説2について>

手だて3 チーム学習を積極的に取り入れた授業展開をすることで、どの児童も共同的に問題と向き合い、自分の考えを深めることができるようにする。

(1) 4象限に分けて人物や対象を評価できる道徳ノートを毎授業活用することで、自分の考えをもったり、その考えをもった理由をまとめたりできるようにする。

(2) スクールタクトの共同閲覧モードの活用や、今の自分の考えを示すために黒板で名前マグネットの操作をすることで、自他の考えを容易に比較し、児童が議論したい思いをもちながら話し合いができるようにする。

6 研究計画

4月の導入段階では、授業の展開方法や内容項目について説明をする。一学期はまだ慣れないこともあるだろうという思いから、毎授業でやり方を確認したり振り返ったりしながら授業を進める。二学期からは少しずつスムーズに授業が展開できるであろう。一学期の授業を通して、授業の展開に少しずつ修正を加えながら、児童と授業を進めていきたい。一学期は運動会周辺、二学期は修学旅行や学芸会周辺、三学期は卒業式練習周辺に練った実践を行いたい。行事に関わらせて自分の心を育てようとする児童を増やしたい。また一年生とのペア活動、委員会活動、係活動、友達とのかかわりなど、普段の生活の中にあるさまざまなことについても触れることで、一年の道徳の授業を通して心が成長できたと実感できるようにしたい。

令和 年 月 日

愛知教育文化振興会理事長様

上記の研究に対する研究費の助成を申請します。

学校名 _____ 氏名 _____ 印

上記の者の申請を認めます。

校長名 _____ 印